

科目名	臨床実習Ⅲ					単位数	16	時間数	640	
授業形態	実習	対象学生	OT 4年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	各実習施設	
授業概要	医療・福祉関連の実習施設で、基本的な作業療法過程を経験する。 実習終了後、他科目で作成したレジメを利用した事例報告、担当症例に対する口頭試問、基礎知識の修得を確認するCBTを実施する。									
一般目標	各疾患における評価、治療目標の設定、治療計画の立案、さらには治療実施を通じて、作業療法の基本的知識・技能の習得をはかることができる。また、職業人・専門職としての基本的な態度の習得をはかることができる。									
テキスト 参考書等	臨床実習Ⅲガイドブック 適宜、資料を配布する。									

到達目標		
知識(認知領域) ・対象者の疾患と治療の概要を説明できる。 ・対象者について、一般的な治療までの過程が説明できる。 ・国家試験(OT専門、直近5年程度)過去問は解答できる。		
技術(精神運動領域) ・対象者について、評価、治療目標の設定、治療計画の立案ができる。		
態度(情意領域) ・実習に意欲的に参加できる。 ・課題等を期日までに提出できる。		
回数	授業内容	授業目標
	臨床実習Ⅲ I期、Ⅱ期	
		I期:2025年5月7日(水)～7月1日(火) Ⅱ期:2025年7月22日(火)～9月17日(水) <評価> ・対象者の疾患と治療の概要を理解する。 ・担当事例特有の症状とそれに対する医学的治療方針もしくは支援方針を理解する。 ・必要な面接、観察、検査、測定 of 項目を列挙する。 ・面接、観察、検査、測定 of 項目を列挙する。 ・得られた情報や検査、測定 of 結果を記録する。 ・得られた情報や検査、測定 of 結果を基に問題点を列挙する。 ・問題点を整理する。 <目標設定> ・障害の変化を予測する。 ・長期目標を設定する。 ・短期目標を設定する。 <治療計画の立案> ・必要な治療や指導を列挙する。 ・実施する治療計画を具体的に立案する。 <管理運営> ・組織の概要を理解する。 ・作業療法の過程を理解する。 ・管理業務の概要を理解する。 <成績判定> ・報告会:実習後、概ね2週間後に実施する。レジメを利用して、実習経験を報告することができる(通常は対面形式で、必要に応じてオンライン形式で実施)。適宜、質問に回答できる。 ・口頭試問:報告会後に実施する(通常は対面形式で、必要に応じてオンライン形式とする)。 教員の質問に対して適切に回答することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			30	秀(4):90点以上 優(3):80～89点 良(2):70～79点 可(1):60～69点 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				20	
宿題授業外レポート	○			20	
授業態度			○	10	
発表・作品		○		20	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	藤井 浩希、他		実務経験紹介		

科目名	作業療法総括演習B				単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 4年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	201教室、ADL室、レク室
授業概要	臨床実習(総合実習)に挑むために必要な心構えの醸成、必要書類の作成を行う。 実習施設の特性を理解するために、実習前に領域別実習対策講座を受講し、実習遂行に必要な知識、技能を修得する。								
一般目標	①実習準備ができる。 ②実習先の特性に応じた学習をおこない、臨地での実習活動に備える。 ③国家試験に準じた学習(臨床医学、評価学、治療学)を行い、総合臨床実習に赴く学生として相応しいレベルでの基礎的知識の定着を図る。								
テキスト 参考書等	適宜指示								

到達目標		
知識(認知領域) 臨床実習に赴く学生として必要な知識を得る。		
技術(精神運動領域) 臨床実習に必要な資料等を揃え、実習に備えることができる。		
態度(情意領域) 主体的に実習に関する準備を行うことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。
2	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。
3	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。
4	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。
5	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。
6	実習準備学習 領域別実習対策講座	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。 領域別実習対策講座を受講し、実習施設や対象者の特性を理解できる。
7	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。
8	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。
9	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。
10	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。
11	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。
12	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。
13	実習準備学習 領域別実習対策講座	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。 領域別実習対策講座を受講し、実習施設や対象者の特性を理解できる。
14	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。
15	実習準備学習	実習先領域に関わる臨床医学・評価学・治療学についての知識を調べ、まとめることができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート		○		100	良(2):70～79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	藤井 浩希、他		実務経験紹介	作業療法士として臨床経験を有し医療機関で実習生の指導経験あり。 日本作業療法士協会「臨床実習指導者講習」修了(藤井)	

科目名	作業療法総括演習C				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 4年	学期	後期	教員実務経験		使用教室	201教室
授業概要	国家試験合格に必要な知識を得るに当たり、国家試験の概要を理解し、各自で対策を講じるための情報等を提供する。								
一般目標	・各種試験に対応する分野を学習し知識を習得する。 ・各種試験を定期的の実施することで、自身の理解度や到達度を把握し、苦手分野を克服し習得する。 ・教員による国家試験対策講座を受講することで、理解を深め知識を習得する。								
テキスト 参考書等	・クエスチョンバンク共通問題、クエスチョンバンク専門問題(メディックメディア) ・PTOT国家試験必修ポイント基礎OT学、障害別OT治療学(医歯薬出版) ・適宜資料配布								

到達目標		
知識(認知領域) ・これまでに修得した専門基礎・専門分野の知識について説明できる。 ・専門基礎・専門分野の国家試験水準の多肢選択問題において、各選択肢の正解・不正解の理由を説明できる。		
技術(精神運動領域) ・学修到達度を把握した上で、継続でき、現実可能性のある自己学習計画を立案できる。		
態度(情意領域) ・国家試験に向け、積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。 ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	講義オリエンテーション 模試や国家試験受験に関する対策講義	本講義の内容を理解し、説明できる。 過去の国家試験を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。 小テスト①解剖学
2	模試や国家試験受験に関する対策講義	過去の国家試験を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。 小テスト②解剖学・生理学
3	模試や国家試験受験に関する対策講義	過去の国家試験を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。 小テスト③解剖学・生理学・運動学
4	模試や国家試験受験に関する対策講義	過去の国家試験を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。 小テスト④解剖学・生理学・運動学
5	模試や国家試験受験に関する対策講義	過去の国家試験を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。 小テスト⑤解剖学・生理学・運動学
6	模試や国家試験受験に関する対策講義	過去の国家試験を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。 小テスト⑥解剖学・生理学・運動学・病理学
7	模試や国家試験受験に関する対策講義	過去の国家試験を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。 小テスト⑦解剖学・生理学・運動学・病理学
8	模試や国家試験受験に関する対策講義	過去の国家試験を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。 小テスト⑧臨床心理学・精神医学
9	模試や国家試験受験に関する対策講義	過去の国家試験を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。 小テスト⑨内科学
10	模試や国家試験受験に関する対策講義	過去の国家試験を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。 小テスト⑩臨床神経医学
11	模試や国家試験受験に関する対策講義	過去の国家試験を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。 小テスト⑪整形外科学
12	模試や国家試験受験に関する対策講義	過去の国家試験を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。 小テスト⑫人間発達学・小児科学・リハビリテーション概論
13	模試や国家試験受験に関する対策講義	過去の国家試験を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。 小テスト⑬内科学・臨床神経医学・臨床心理学・精神医学・整形外科学
14	模試や国家試験受験に関する対策講義	過去の国家試験を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。 小テスト⑭解剖学・生理学・運動学・病理学
15	模試や国家試験受験に関する対策講義	過去の国家試験を振り返り、今年度の国家試験を受験するための知識を習得する事が出来る。 小テスト⑮解剖学・生理学・病理学・運動学・臨床心理学・精神医学・人間発達学・小児科学・内科学・臨床神経医学 ・整形外科学・リハビリテーション概論

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上
小テスト	○			100	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	()内はGPA点数
出席			○	欠格条件	
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士として、医療機関、教育機関での経験を有し、国試指導の経験もある。	

科目名	臨床実習セミナーⅢA					単位数	2	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 4年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	201教室	
授業概要	臨床実習(総合実習)に挑むために必要な心構えの醸成、必要書類の作成を行う。									
一般目標	臨床実習の内容・目標が理解できる。									
テキスト 参考書等	適宜配布									

到達目標		
知識(認知領域) 臨床実習の内容・目標が理解できる		
技術(精神運動領域) ・必要書類を要綱に則り作成することができる。 ・提出物を期限内に提出することができる。		
態度(情意領域) 総合臨床実習に赴くために必要な意欲、態度、倫理感を身に着けることができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション、実習目標・実習課題、実習に関わる規定・実習注意事項、デューリーノート・ケースレポート指針説明について	臨床実習Ⅲの流れと成績判定、実習目標・実習課題、実習に関わる規定・実習注意事項、デューリーノート・ケースレポート作成要項について説明を受け理解することができる。
2	1期実習施設への事前連絡、準備	実習地への電話連絡ができる。 臨床教育者から実習に必要な情報を得られる。それを基に必要な準備ができる。
3	1期実習事前面談・指導	ゼミ担当教員に実習事前面談・指導を受け、実習に備える事ができる。
4	実習準備	実習に必要な知識の整理、技術の再確認を行い、実習に備えることができる。
5	実習準備	実習に必要な知識の整理、技術の再確認を行い、実習に備えることができる。
6	実習準備	実習に必要な知識の整理、技術の再確認を行い、実習に備えることができる。
7	1期実習直前オリエンテーション(壮行会)	実習に赴くために必要な事項について最終点検(移動手段、持参物、事前課題など)を行うことができる。
8	1期実習後ゼミ(振り返り)提出物の確認・お礼状作成	実習終了後、提出物(デューリーノート、ケースノート、出席表、チェックリストなど)をまとめ直して、提出できる。 実習地へのお礼状を作成し、提出できる。
9	2期実習施設への事前連絡、準備	実習地への電話連絡ができる。 臨床教育者から実習に必要な情報を得られる。それを基に必要な準備ができる。
10	2期実習事前面談・指導	ゼミ担当教員に実習事前面談・指導を受け、実習に備える事ができる。
11	2期実習直前オリエンテーション(壮行会)	実習に赴くために必要な事項について最終点検(移動手段、持参物、事前課題など)を行うことができる。
12	実習準備	実習に必要な知識の整理、技術の再確認を行い、実習に備えることができる。
13	実習準備	実習に必要な知識の整理、技術の再確認を行い、実習に備えることができる。
14	実習準備	実習に必要な知識の整理、技術の再確認を行い、実習に備えることができる。
15	2期実習後ゼミ(振り返り)提出物の確認・お礼状作成	実習終了後、提出物(デューリーノート、ケースノート、出席表、チェックリストなど)をまとめ直して、提出できる。 実習地へのお礼状を作成し、提出できる。

成績評価方法						
	知識(認知領域)		技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験					評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80～89点 良(2):70～79点 可(1):60～69点 不可(0):60点未満 未修得
小テスト					評価なし	
宿題授業外レポート			○		100	
授業態度				○	評価なし	
発表・作品					評価なし	
演習					評価なし	
出席				○	欠格条件	
担当教員	藤井 浩希、梅本 早矢香、他		実務経験紹介	作業療法士としての臨床経験を有し、医療機関で実習生の指導経験あり。 日本作業療法士協会「臨床実習指導者講習」修了(藤井)		

科目名	臨床実習セミナーⅢB					単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 4年	学期	前期	教員実務経験		使用教室	201教室	
授業概要	臨床実習において担当した症例について、知れた情報をもとにレジюме(ポートフォリオ)を作成し、それを通して症例に対してより理解を深める。									
一般目標	・レジюмеを作成することができる。 ・事例報告会、口頭試問に向け事前準備を行うことができる。									
テキスト 参考書等	適宜配布									

到達目標										
知識(認知領域) レジюме作成、事例報告、口頭試問に必要な情報について学習し、理解することができる。										
技術(精神運動領域) レジюме作成要綱に則り、事例報告レジюмеを作成することができる。										
態度(情意領域) 意欲を持って臨む。										

回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション(レジюме作成指針)	レジюме作成要項の説明を受け、理解することができる。
2	臨床実習ⅢⅠ期 レジюме作成	レジюме作成要項に則り、事例報告レジюмеを作成できる。
3	臨床実習ⅢⅠ期 レジюме作成	レジюме作成要項に則り、事例報告レジюмеを作成できる。
4	臨床実習ⅢⅠ期 レジюме作成	レジюме作成要項に則り、事例報告レジюмеを作成できる。
5	臨床実習ⅢⅠ期 事例報告会準備	事例報告に必要な準備を行うことができる。
6	臨床実習ⅢⅠ期 口頭試問準備	口頭試問に必要な準備を行うことができる。
7	臨床実習ⅢⅠ期 口頭試問準備	口頭試問に必要な準備を行うことができる。
8	臨床実習ⅢⅠ期 振り返り	指摘事項を踏まえた上で、事例報告レジюмеを修正できる。
9	臨床実習ⅢⅡ期 レジюме作成	レジюме作成要項に則り、事例報告レジюмеを作成できる。
10	臨床実習ⅢⅡ期 レジюме作成	レジюме作成要項に則り、事例報告レジюмеを作成できる。
11	臨床実習ⅢⅡ期 レジюме作成	レジюме作成要項に則り、事例報告レジюмеを作成できる。
12	臨床実習ⅢⅡ期 事例報告会準備	事例報告に必要な準備を行うことができる。
13	臨床実習ⅢⅡ期 口頭試問準備	口頭試問に必要な準備を行うことができる。
14	臨床実習ⅢⅡ期 口頭試問準備	口頭試問に必要な準備を行うことができる。
15	臨床実習ⅢⅡ期 振り返り	指摘事項を踏まえた上で、事例報告レジюмеを修正できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート		○		100	良(2):70～79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	藤井 浩希、他		実務経験紹介	作業療法士として臨床経験を有する。また、医療機関で実習生の指導経験あり。 日本作業療法士協会「臨床実習指導者講習」修了(藤井浩)	

科目名	国家試験対策セミナーA				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 4年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	201教室
授業概要	国家試験合格に必要な知識を得るに当たり、国家試験の概要を理解し、各自で対策を講じるための情報等を提供する。								
一般目標	・各種試験に対応する分野を学習し知識を習得する。 ・各種試験を定期的の実施することで、自身の理解度や到達度を把握し、苦手分野を克服し習得する。 ・教員による国家試験対策講座を受講することで、理解を深め知識を習得する。								
テキスト 参考書等	・クエスチョンバンク共通問題、クエスチョンバンク専門問題(メディックメディア) ・PTOT国家試験必修ポイント基礎OT学、障害別OT治療学(医歯薬出版) ・適宜資料配布								

到達目標		
知識(認知領域) ・これまでに修得した専門基礎・専門分野の知識について説明できる。 ・専門基礎・専門分野の国家試験水準の多肢選択問題において、各選択肢の正解・不正解の理由を説明できる。		
技術(精神運動領域) ・学修到達度を把握した上で、継続でき、現実可能性のある自己学習計画を立案できる。		
態度(情意領域) ・国家試験に向け、積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。 ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	国家試験対策オリエンテーション	国家試験に関する概要(試験範囲、合格基準、問題傾向)を理解する。また、今後の国家試験対策の流れを理解する事ができる。
2	合格可能性検定試験①に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
3	合格可能性検定試験①のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
4	合格可能性検定試験②に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
5	合格可能性検定試験②のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
6	合格可能性検定試験③に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
7	合格可能性検定試験③のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
8	合格可能性検定試験④に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
9	合格可能性検定試験④のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
10	業者模試(医歯薬①)に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
11	業者模試(医歯薬①)のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
12	合格可能性検定試験⑤に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
13	合格可能性検定試験⑤のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
14	合格可能性検定試験⑥に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
15	合格可能性検定試験⑥のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	本校教員として国家試験対策講義を担当した経験あり。	

科目名	国家試験対策セミナーB				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 4年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	201教室
授業概要	国家試験合格に必要な知識を得るに当たり、国家試験の概要を理解し、各自で対策を講じるための情報等を提供する。								
一般目標	・各種試験に対応する分野を学習し知識を習得する。 ・各種試験を定期的の実施することで、自身の理解度や到達度を把握し、苦手分野を克服し習得する。 ・教員による国家試験対策講座を受講することで、理解を深め知識を習得する。								
テキスト 参考書等	・クエスチョンバンク共通問題、クエスチョンバンク専門問題(メディックメディア) ・PTOT国家試験必修ポイント基礎OT学、障害別OT治療学(医歯薬出版) ・適宜資料配布								

到達目標		
知識(認知領域) ・これまでに修得した専門基礎・専門分野の知識について説明できる。 ・専門基礎・専門分野の国家試験水準の多肢選択問題において、各選択肢の正解・不正解の理由を説明できる。		
技術(精神運動領域) ・学修到達度を把握した上で、継続でき、現実可能性のある自己学習計画を立案できる。		
態度(情意領域) ・国家試験に向け、積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。 ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	合格可能性検定試験⑦に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
2	合格可能性検定試験⑦のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
3	業者模試(アイ①)に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
4	業者模試(アイ①)のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
5	業者模試(三輪秋)に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
6	業者模試(三輪秋)のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
7	合格可能性検定試験⑧に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
8	合格可能性検定試験⑧のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
9	業者模試(アイ②)に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
10	業者模試(アイ②)のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
11	業者模試(医歯薬②)に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
12	業者模試(医歯薬②)のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
13	合格可能性検定試験⑨に関わる講義・指導	試験前の特別講義、個別指導により、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
14	合格可能性検定試験⑨のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
15	業者模試(三輪冬)のフィードバック	試験後のフィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	本校教員として国家試験対策講義を担当した経験あり。	